惨三陸津浪以上の宮古

本社支局第一報

一瞬にして三百数十名の生命を 奪われた 死の街宮古、は一切の通信交通が絶たれ わずかに漁船による無電連絡によつて断片的な被害がもたらされるに過ぎなかつたが、十九日午後十時釜石経由の災害電話が復旧、本社下山支局長は第一報を報じ、自らは十九日正午写眞をたずさえ山隙いに盛岡へ強行した、続いて八戸港を出港した高橋、阿子島両特派員も廿日未明宮古港に入港した、かくて一瞬にして川原と化した 被害地の全ぼうが漸く明かとなつたが被害は昭和八年三陸を襲つた大津浪以上の惨害と伝えられている

二百廿戸海に呑まる 漁業会長らも九死一生

【下山宮古支局長十九日夜発釜石経由第一報】十六日夜来の豪雨は宮古全市をほとんど水禍に没し、災禍は目を覆わしめるばかりで、藤原地区のごときは戦災の痛手もようやくいえ、水産加工場や新築住宅も建ち並びようやく復興の息吹きをたゞよわせていた矢先、一夜にして無惨な河原と化し去つた、三陸津浪以来の惨禍である、その夜の殴りつ一閉伊川の堤防が欠壊し一挙に宮古市の二百二十戸が濁流に押し流され、暗夜流れ行く屋根の上から燈火をふつて声をかぎりと救いを求める声もと切れがちにこの世ながらの

地獄絵とも いうべく、みるくうちにわが家が宮古湾の濁流に押し流される、悲惨な光景を見送る避難民たちもアレヨくとひしめくのみで手のほどこしようもなかつた、なにしろ最高水位は駅前で六尺に達した、宮古湾に押し流された人々のうちにはそのまま対岸の白浜や重茂村の海岸に打ち上げられすがりついて九死に一生を得たものが廿四名もあつた、この中には宮古漁業会長の山内仁右衛門氏親子や漁業家の坂下平兵衛氏などがある、藤原田野屋の山内さん一家六名は土蔵が崩壊してその下じきとなつて全滅するなど惨状は目もあてられない、山口川切溶堤防および閉伊川堤防が一挙に六カ所も欠壊し、宮古一円が浸水にのまれ老人、子供は着のみ着のまゝ高所に逃げのび、屋根に残つたまゝ夜を明した人々も無数にあつた

十九日午前 八時現在の被害状況は被災戸数四、八〇〇、被災民二三、三〇〇、行方不明二五〇、死体収容二〇、負傷六〇、流失家屋二九八、倒壊二九五、床上浸水三、〇六八、床下二八五、浸水三、〇六八、堤防欠壊六（延長四百米）護岸欠壊七（六百米）道路欠壊一八（八五〇米）漁船流失大中型五〇隻、小型一〇〇隻、木材流失二〇〇石、木炭五千俵、収穫皆無水田六〇町歩、畑一二〇町歩などぼう大な数字にのぼり漁業関係の損害だけでも廿億円にのぼり、そのほか東亜鉱業、極東鉱業をはじめ製材工場十カ所、鉄工場九カ所のほか宮古第一、二両高校と中学一、小学校三や市役所その他の官公衙がほとんど水浸しとなつた

宮古市会で は急ぎ市役所に水害対策本部を設け應急策として倒壊、流失家屋に各一千円、被災者には米一俵あて見舞し、被災者にはたき出し食を給しているが、駅前食糧公団の倉庫には水浸しとなつたわずか六日分の食糧しかなく、市民は大きな不安におのゝいている、陸路からする救援隊は無論のこと海上からのそれもいまだに届くようすがなく、たゞ宮城県から米二百俵をつんだ大東丸が海路宮古に向つたとの情報に市民たちは一まつの希望のあかりをともしている

死体漂う湾内 その夜の船上

【久慈港にて高橋、阿子島両特派員発】久慈港にアイオン台風おそうとの情報により港内にいた大部分の漁船は避難のため湾の深い宮古、八戸に向つて移動したが松井丸（一七トン）乗組員の一人大向武夫君（二七）は海上から見た水禍の宮古市の実相を 次のよう に語つている

われくは台風を避けて宮古湾に避難したが湾内から市街地を望むに藤原附近の家屋三百戸は濁水にのまれてあとかたもなく湾内にはバラくになつた家屋の残がいが漂流し根のついた大木や木材が荒波に浮き沈むなど見るも無残な情景を呈していたときたま死体が漂流してくるがこれを救おうにも荒波のため手のほどこしようがなく十九日朝までに湾内に十五、六名の死体が収容されたのみで行方不明は二百五十名もあるとのことだつた、自分たちは荒波のため岸壁につくことができないので湾内にイカリをおろしたまゝ小舟をあやつゝて鍬ケ崎に上陸したが鍬ケ崎はほとんど無事だつた、電報を打とうと郵便局に行つたが電報も電話も全く途絶していた、市内の惨状は目もあてられず土蔵にはいつたまゝ一家十二名がアツという間に押しつぶされたという悲惨な話もあり昭和八年の三陸大津浪以上の惨害といわれ内陸部との交通はもとより電話、電信も途絶え孤立無援におちいつた市民たちは燈の消えた暗黒の中に恐怖におのゝきながら救助を待つていた

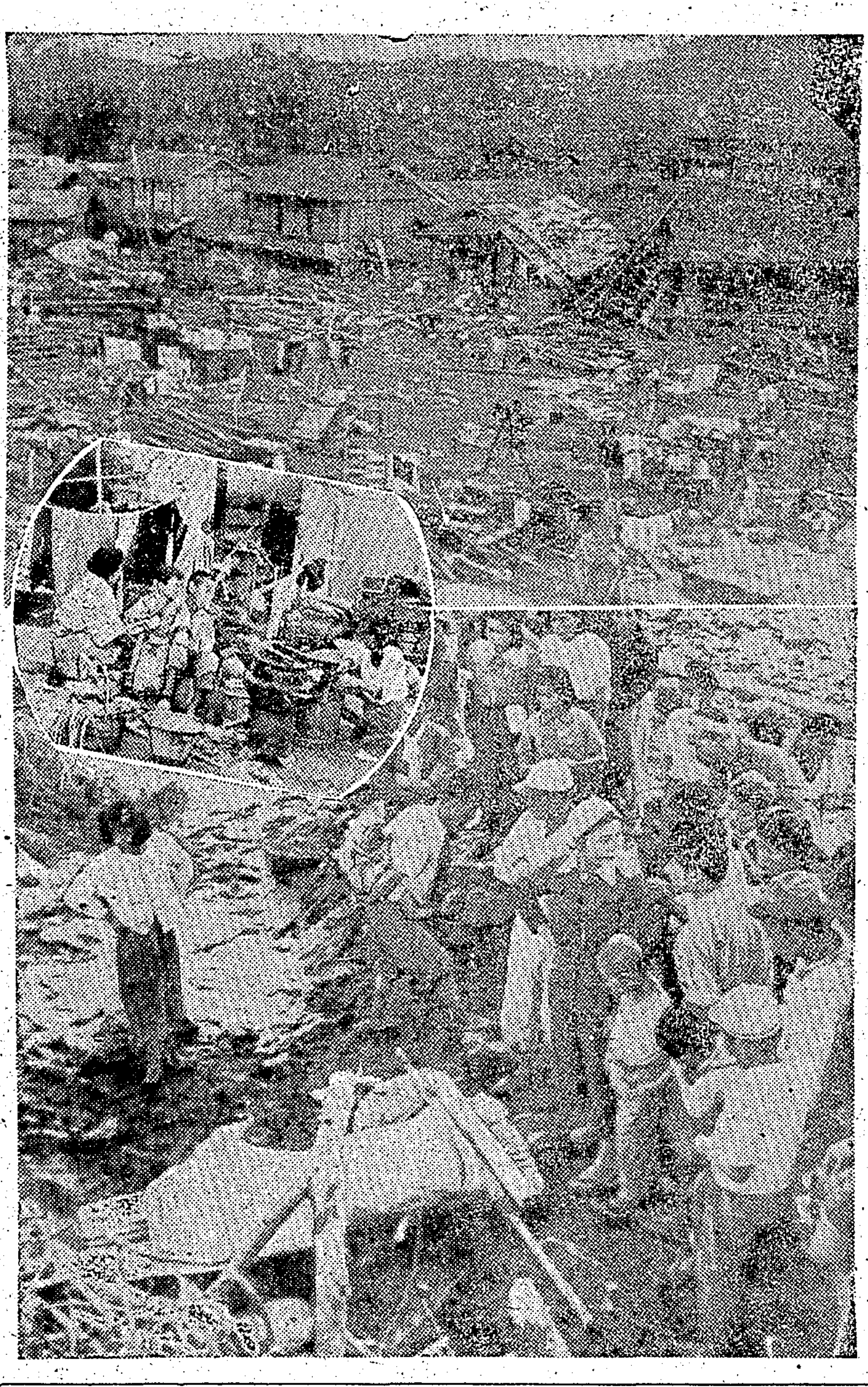
救援米に生色取戻す 二百俵積んで大東丸入港

【大東丸にて高橋、阿子島両特派員発】大東丸から石巻無線局通信所経由ー山田線の壊滅と通信機関の途絶で全く孤立と化した岩手県宮古市の三万八千名を救うため宮城県から救援米二百俵を積んで急行の大東丸（八十トン）は十九日午後三時半宮城県渡波港を出帆廿日午前零時半宮古港に入港したが記者はこれに便乗、水害地宮古を訪れた、まず目をうつものはこうこうたる月明の下に電燈一つない宮古市の姿だ、救援米來るの報らせに市民の中を市役所内にある水害対策本部にいたり宮城県水産課の長松技師から菊池宮古市長にたいし慰問の言葉と救援米の引継ぎを行い午前七時から荷卸作業に移つたが同市は飲料水、医薬品に極度の欠乏を告げ困窮している、対策本部の話によれば浸水家屋床上三千五百戸、同床下二百八十六戸、負傷者四十一名、行方不明百八十六名、船の流失約六十隻、水産関係の被害二十億円、鉄道は当分復旧の見込み立たずとのことである（共同）

死者一千を予想 山間地の被害も大

県厚生課内に特設された災害救助隊本部に集つてくる各地水害状況は一報ごとに惨害を増し廿日午後三時現在死者三百五十五、行方不明六百六十一、被災者総数十四万八千五百九十一名となつた、今次水害は支流や小河川のはん濫によるものが多いため交通不便の山間地に相当の被害が予想されこれが判明するにしたがつて被害はさらに増加する傾向にあるので、あるいは死者一千名、被災者二十万（県下の一八%）をこえるのではないかと予想されるにいたつた、一関市も死者二百と伝えられたのが死者二百五十、行方不明三百五十名となり県下各地の集計は次の如くである

家屋倒壊一、七五〇、流失九九〇、浸水一六八、一〇七、水田流失二、一一二、冠水一三、二九九、畑流失一、三五八、冠水一一、六七〇、堤防欠壊五〇七（延長一三六四六米）破損一四（六二〇）道路埋没流失四一七（一九、五一四）破損二一〇（二、五四〇）橋りよう流失四六五、破損四四、鉄道不通八、家屋半壊三、二九一、火災一五



写眞 **涙の死骸取片づけ** ㊤災害四日目、さしも水の威力にたゝかれて乱雑に捨てられた家屋もだんだん取り片づけられて行く川街附近の被災現場㊥十九日初めて市民にくばられた應急食糧パン（一人一個づつ）をほおばる子供たち（川街附近で）㊦取り片づけのうちに磐井橋タモトで発見された死体、十五六歳と十歳位の兄弟らしい二人が抱き合つていた、検死を受けたあとも人々は憐れみの眼で立ち囲んでいる【櫻田写眞部員撮影】

急ぐ救護隊

【久慈港にて高橋、阿子島特派員発】宮古市救援のため県ではトラツク、歩行など陸路による救援を計画しているが十九日初めて海路からする救援を計画し衛生部医薬補給班、県医師会救護班、県水産課連絡員などの一行が八戸市から海路宮古に向け午後二時出航し六時には久慈港に到着したが波浪が高くまた宮古湾一帯には漂流物が多く夜間航行が不可能なので当夜の宮古乗り込みを断念し廿日午前二時半宮古を指して久慈港を出航した

釜石 食糧不安

【西川釜石支局長発】水禍の釜石市の食糧は代用食が六日分しかなくこれが市民の不安をかり立てている、市の食糧対策委員会では十八日緊急対策会議を開き陳情団は廿日仙人峠をこえて県へ陳情に向つた、市内のヤミ米は最近百七十円まで下つていたが一躍二百五十円から三百円にはね上り八百屋の店頭に売れ残つていたカボチャなどは一個も残らず姿を消してしまい市民は不安におのゝいている

原型残るのは隧道のみ

【下山宮古支局長発釜石経由】今次水害による山田線の惨状は実に言語に絶するものがある、神宮古保線区長はこの被害状況につき昨年の三倍の被害である、腹帯ー宮古間の鉄橋はほとんど欠壊流失した、道床と鉄橋が廿八カ所および開通見込みは無論絶無であると語つている、十六日午前十一時盛岡市を出発して宮古に向つた宮古市機業の中谷忠平さん（[illegible]）は松草駅で列車不通となりあらゆる苦難をなめ二日がかりで十九日朝宮古にたどりついたが山田線の惨状を次のように語つている

全く話のほかで開通十五周年のお祝いが済んだばかりに何たることでせう、宮古に通ずる隧道は小鉄橋だけを残してあとは全部流失し、鉄道もレールがずたずたに押しひしがれ原形を止めているのはトンネルだけだ、復旧どころかこの後仕末だけでも今年一杯はかゝると思う、平津戸から松草に到る間家屋の流失や死者が相当の模様だつた

鉄道 不通個所

鉄道の不通個所は奥羽本線水沢折居間が廿三日ごろ復旧、陸中折居以南は十月五日ごろの見込み、大船渡線は不通個所は復旧したが一関駅構内不良のため貨物、盛間を廿日から運行開始した、山田線は平津戸までの工事を開始するため十九日鉄道工業、鹿島建設、仙鉄工業の三業者に着手方を依頼したが、開通見込は不明である

仙鉄局では仙山線は輸送力がないため同線着通となる手小荷物及び陸羽本線不通区間を通過する手小荷物は連合軍荷物、新聞原稿、医薬品、フイルムなどのほか受託発送を停止した

山津浪で五戸埋没

【釜石経由十九日夜新沼、盛支局発】気仙の水害は気仙、盛両川のはん濫で死者十三名のほか家屋倒壊、浸水など相当数にのぼり復旧には一カ月を要する模様である中でも気仙川上流の上有住村五葉部落では山津浪（土砂崩壊）のため五戸十二むねが埋没し死者九名と行方不明二名、重傷四、軽傷八を出し、横田村舞部落ではやはり土砂崩壊のため死者三名、行方不明一名を出すなど被害はじゆん大である

綾織の被害

【遠野にて西沢特派員発】上閉伊郡綾織村は猿ケ石川のはん濫により郡下最大の被害をこうむり釜石西線、綾織ー遠野間の沿線は惨たんたる有様で水量は大分減水をみたものの、いまなお濁流はゴーゴーと音を立てゝ流れている、綾織村被害状況次のとおり

▽家屋…流失八、全壊二、半壊一五、床上浸水一五四、床下浸水二〇▽田畑被害状況…水田流失三十四町、埋没五十三町、その他の田畑は全部冠水▽人畜被害状況…死者八、馬一、豚八、ヤギ二、めん羊二

衛生部からの注意

【衛生】県衛生部では県下水害地の衛生について次のように注意している❶生水、生物は飲食しないこと❷腐敗物が多くなるから中毒に注意のこと❸食前の手洗いを励行すること❹家屋内の徹底的清掃を行うこと❺疑わしいに注意❻下痢または発熱の場合はたゞちに医師の診断を受けること❼汚物の処理と下水の流通をよくすること❽井戸水は必ず煮沸またはサラシ粉で消毒してから使用すること❾タタミ、衣類は日光消毒すること

【盛岡】水道断水したので盛岡市役所衛生課では廿日から井戸水の消毒剤としてサラシ粉の無料配給をする、同課に容器持参のこと▽使用法…直接井戸に入れずにくんだ水一石に対しサカズキ一杯を入れる

【消毒】盛岡市衛生課では廿日から被害地区にDDT消毒剤の散布を行うから汚物、ドロなどを取り除いておくこと

鉄橋14カ所流失 山田線被害益々増大

山田線の水害は鉄道通信がきかないため、正確なことはわからないが、その後盛岡管理部に集まる情報により被害が逐次増大し、川内以遠に鉄橋流失六カ所あり合計十四カ所にのぼり、昨年の水害で第廿三閉伊川鉄橋の一部が流失しただけに比しその被害の大きさが思われ、また昨年は無事だつた腹帯ー蟇目両駅も本屋の一部をのこし原形をみられないなどの惨状が次々ともたらされ、松草ー蟇目間の国鉄職員とその家族約六百名の安否が気づかわれるなど盛岡管理部当局もぼう然自失の態である、二十日までに報告された松草ー宮古間の主な被害状況次のとおり

◇松草、平津戸間△近松草橋りよう橋台裏築堤流失△四五〇米二〇〇及び四六〇米一五〇附近土砂崩落各二千立方米（この二カ所土砂取片づけだけで四百四十万円）御山川橋りよう流失△第十一閉伊川橋りよう三連流失

◇平津戸、川内間△第十二閉伊川橋りよう盛岡寄り一連宮古寄り二連流失その他流失△第十三閉伊川橋りよう全部流失△第十四閉伊川橋りよう全部流失と橋脚一本流失

◇川内、箱石間△五四〇米附近道床洗われ線路延長三百米ハシゴ状になつた

◇箱石ー陸中川井間△第廿二閉伊川橋りよう盛岡寄り一連をのこして流失△小国川橋りよう盛岡寄り二連流失◇陸中川井ー腹帯間△第廿三閉伊川橋りよう第三号橋りよう四五度傾斜△第廿五閉伊川 橋りよう 四連と橋脚流失

◇腹帯ー茂市間△八一米から八三米四五〇米まで線路形体なし△腹帯駅構内本屋一部をのこし原形なし

◇茂市ー蟇目間△第卅閉伊川、橋りよう六連全部流失△第卅一閉伊川橋りよう五連流失△第卅三橋りよう二連流失△蟇目駅構内本屋 附近一部 のこし原形なし

◇蟇目千徳間土砂崩落三、五〇〇立方米小破個所多数△千徳ー宮古間△近内川橋りようケタ逆立ち

◇宮古ー磯鶏間第卅四閉伊川橋りよう橋脚傾斜

教委候補者放送

QGの教育委員候補者の見解発表放送は九月二十六日から毎日午前七時十五分より十五分間行われ放送時間は一人四分で一日三人ずつである、なおこの放送の諮問委員は次のとおり委嘱された▽宇部政文（保守）森嘉兵衛（中立）阿部駿蔵（急進）

教委選挙標語あす締切

教育委員選挙の趣旨徹底と棄権防止のため本社ならびに県社会教育課の共同主催で標語を募集中だが応募作が続々集つている、締切は明廿二日、あて先は新岩手日報編集局および県社会教育課標語係、廿四日発表の上、入選を決定廿五日紙上に発表する

離脱者釈放要求

『不当検束無罪釈放人民大会』は民主々義防衛委員会主催で十八日午前十時から盛岡市岩手公園広場に市内労組代表三百名参集して開催、職場を離脱し現在検挙されている八名の無罪釈放要求を決議、盛岡裁判所、盛岡少年刑務所にデモ行進を行い決議文を手交した

引揚と復員

【舞鶴発】十四日入港の朝嵐丸 石井仁蔵（大迫）常盤長太郎（浪打）神小路富四郎（気仙）平原幸治（栗石）藤原武雄（湯田）菩石末治（久慈）寺坂慶治（高田）藤原一美（内川目）箱石重郎（小本）新田深次郎（土淵）前田市男（吉浜）菅原得至（金ケ崎）久保田長治（笹間）菊地太郎（松崎）佐々木武二（宮古）鈴木正夫（遠野）菅原俊典（折壁）皇沢弥助（花巻）石川喜一（盛岡）上夏井松夫（夏井）松本三男（久慈）昆富儀（鳥海）加藤壮四郎（盛岡）皆川良吉（藤沢）畑山隆（花巻）早坂竹男（福岡）菅沼平男（釜石）高野安五郎（宮古）吉田喜造（盛岡）照井信一（盛岡）千田清吉（前沢）八幡四治郎（田山）高橋喜六（松尾）佐々木喜八（金沢）千田秀雄（古城）菊地孝由（釜石）下村親雄（唐丹）杉沢英男（福岡）遅沢利也（盛岡）齋藤勇五郎（雫石）岡田春松（藤沢）小原省三（横川目）三浦勘之（田山）富沢留吉（土沢）

八木宮古間に定期船 廿一日から沿岸と内陸連絡

山田線の致命的被害により沿岸と内陸との連絡をどうしてとるかについて県は廿日協議した結果次の方法をとることにした

当分陸路の連絡がとれないので海運によつて宮古市と連絡することにした、基地は九戸郡種市村八木港、早池峯丸を連絡船にあて、毎日一往復を廿一日から開始するが盛岡と宮古との連絡時間次のとおり。

▽盛岡五時一三分発尻内駅経由八木駅一一時四四分、一三時八木港発二〇時宮古着▽宮古四時発八木港一一時着、一二時四五分八木駅発、一七時盛岡着

次に陸路陸送連絡ルートを盛岡ー遠野経由釜石までとしているが、途中釜坂（遠野部）鍋倉寺沢（宮守）愛宕（綾織）初音（青笹）の五橋と綾織村地内道路、青笹村地内笑木峠上口が欠壊しているので、これが復旧に重点を注ぐことになつたが廿三、四日ごろにならないと見込みがつかない

主婦のメモ

【主食】盛岡市の配給は廿一日からグリンピース二日分丸麦か押麦一日分、次は砂糖四日分【魚】廿一日盛岡入荷▽八戸からイカ六千貫

責任ある人を選挙しよう 無責任な人々の監督する学校に皆さんの子供さんをやりたいと思いますか もち論そうではないでしよう、それでは來るべき選挙にはよく注意して責任ある人を選挙しましよう（岩手軍政本部）

声

憤慨子にお答え

◇十八日付本欄一のある日曜日盛街道のバスとオートバイの衝突車のてん末を目撃した憤慨子にお答えすると共に読者各位に投書中〇〇町〇〇組とあるのは本町の小林組であることをはつきり申上げて置く

◇私らの家業では声の大きいのが普通で客でも私は乗客の方々の手前かなり遠慮してずつと低くしたはずである、それにあの時の争いは売り言葉に買い言葉式でどうにも仕方のない状況であつたと思う、また憤慨子はバス会社に何か因縁をつけて金品をまき上げる魂胆のように見えるとか小林組は今日市民の脅威であるとか言つているが何故こう思つたか私には 納得が行かない

◇しかしあなたが本当にそう思つたのなら当日その場で『君が無理ではないか』と出て来るのが道と思う あの日あなたが見たように私にばかり非があるのならば私だつてあやまちを改むるにちゆうちよするものではない、明るい盛岡を建設するためなら私とてなん時でも語り合う用意のあることを申添えます（盛岡市本町小林組長）

災害に屈するな 帰任の市長が告示

市長会議に出席のため秋田県能代市に出張中の阿部一関市長は十九日一関に帰り廿日左の市長告示を出した

一関市再び水魔の襲うところとなつたが市長と諸君は一関の祖先の偉業と一関市の尊い歳月に徴し災害にくつせず郷土復興に まい進しなければ なりません

その後の死亡者 更に六四名

続々発見される死体を検死中の警察署本部発表によれば十九日までの身元判明者は六十四名、不明者は二十三名でほかに行方不明者は六百八名もあり生存をつたえられているものはわずかに廿名だ

▽その後の判名者（自石ミワ、高橋光治、以 後十六日の分）川街一六渡辺シノブ（[illegible]）大槻街二ノ三三千葉キクミ（[illegible]）地主町森忠夫（[illegible]）十九日の分＝川街一六井上なお（五七）地主街五一菅原喜美子（[illegible]）同菅原せい子（[illegible]）山ノ目鍛冶町二五千田トシミ（[illegible]）東花王町一〇四高ノ一岩井ヤエ（[illegible]）下街七古沢節（[illegible]）同古沢二三三（[illegible]）同古沢節（[illegible]）大槻街一屋瀬いく子（[illegible]）同一〇佐藤新三郎地主街五三今出弁吉（[illegible]）同今井光雄（[illegible]）川街二三松本ミキ子（[illegible]）同佐藤富男（[illegible]）同九阿部和子（[illegible]）地主街五四 佐 々木操（[illegible]）同五一佐々木利夫（[illegible]）同 五五森 田ヨシ子（[illegible]）同五六木村栄、川街二三内藤フサノ（[illegible]）同内藤勝義（[illegible]）下大槻街九阿部妙子（[illegible]）川街一落合正夫（[illegible]）地主街五〇森茂子（[illegible]）同南黒沢阿部蓉奥（[illegible]）寒下街二ノ一氏家みどり（[illegible]）下大槻阿部たけと（[illegible]）東花王町高東イチ（[illegible]）山ノ目鍛冶町鈴木ナカ（[illegible]）地主街五五斎藤よりチ（[illegible]）同街五七阿部正光（[illegible]）

田老も死者七名

【下山宮古支局長発】九月十八日午前九時までに下閉伊地方事務所に到着した情報によれば小本岩泉方面（郡北方面）の情況は目下道路欠壊のため連絡不能となり情況不明

▲田老町 浸水家屋三百十九戸、被災数一千三百六人、全壊三戸、半壊五戸、死者七名、行方不明十名、非住家倒壊一〇一戸、田畑流失埋没百一町、橋りよう流失二二カ所

▲花輪村は目下浸水中で調査不能なるも老木、田頭、松山部落は全戸浸水、田畑流失埋没百四十町歩、橋りよう七カ所、流失

▲津軽石村は床上浸水二百戸、田畑の被害金額は三分二、水田埋没流失二百町歩

本社寄託 水害義金

【廿日】△一千卅三円五十銭盛岡市山岸獅子踊一同△二百五十円盛岡市光照寺鼓えん金箱△二百廿円盛岡市願教寺鼓えん金箱△三百円盛岡市八幡自動車株式会社従業員一同△二百円盛岡市大沢川原寺谷勇治△二千円盛岡市大通り神輿会△[illegible]円、作業衣一ズボン二盛岡市上田巡査駐在所佐藤富雄 小計四千百三円五十銭

△総計三万九千三百七円卅五銭

紙風船

◇…一関駅前の某ホテルは出水と同時に折から泊つていたお客さんたちはそれツとばかり女中さんたちに交つてゼン、ワンを二階に持ち運んであげたがさて十七日十八日と水はえるばかり

◇…すつかり足をとめられたお客さん、三度三度の食事を出されては一体いくらとられるかビクくものだつたが、二日三晩泊つた人のツケがなんと二百六十円

◇これおや、あんまりだと礼を切る客人を番頭ガンとして引受けず『水ドロは絶対致しません』とはねつけゆつくり休んで行きなさいとなぐさめられてお客さん、かえつて恐縮した―とはうれしいはなし

天氣豫報

【内陸・沿岸】南よりの風弱く午前中雨、午後は雨止み、曇りがち時々晴れ間も出る、明日は南西の風晴れたり曇つたり、海上は南のち北西の風で風波が高いが夕刻次第におさまる

一関の悪夢に描く哀話・佳話

【一関にて井上、長谷川両記者発】せい絶な一瞬を過ぎてみると今日こゝにこうして生きていることの奇跡をシミぐ感ずる、あの一瞬には悲しみも恐れも顧みるいとまも余裕もなかつた、四日目の廿日水魔一過のどろ土一関の街々に拾う話はすべて"奇跡"であり悲しみの相であつた、以下その集録である

さまよう孤児 奇跡・生残りの人々

溺死 者は磐井橋附近の川岸民家に多く花川戸、鍛冶町、川街地主街等家屋の流失区域では家族全員無事というところは数えるほどしかなく大ていの家では一人か二人死者ないし行方不明者を出しているようだが町を埋めている流木や家財の取り除きが困難で死体が発見されず家族は死んだものとあきらめて家屋の中を整理している

磐井橋のたもと附近では家屋の影を消した廃墟のあとに辛うじて残つた柱と屋根だけの形がいがポツくありそこに一枚のキレ、一個の茶わんでも何とかして探し出そうとして集まり、どろ土や床下附近を掘り返している痛々しい姿が到るところにみられている

◇

川街 の金野勝二さん一家は六名のうち親子五人が行方不明で十九日に至るも死体が発見されず初級中学校三年の長男元男君（一五）一人だけが生き残つた、さいわい家は流されず柱と屋根だけ残つたが家財は大半流失、元男君は家の復旧を助けに來た鉄道員に頼んで毎日のように市内を回つてタンスや行李を探し出かけ町内の人の同情を集めている、元男君は語る 千厩に遠縁の親せきはあるがまだ連絡がありません

◇

また なかには流失家屋の中で奇跡的に助かつた人もある、一関一高裏の鈴木吉郎さん（五〇）一家六名は狐禅寺附近三ノ関まで約二キロも家屋が流され柱にすがりながら生きた心地もなく半死半生の態いで狐禅寺岸に到着九死に一生を得た、また川街居住の一関興業トラツク運転手菅原民二さん（[illegible]）一家四人は自宅前のヒバガキにつかまり屋根の上に登つて助かつた

◇

一関市 助役石川佐助氏は北上川狐禅寺沖に舟をくり出して四十余名の漂流者を救助したが、このうち根街鈴木カツ子さん（[illegible]）は赤ん坊を抱いたまま押流され千厩橋でようやく舟橋のロープにすがりついて助けを求めた、左手に赤ん坊を抱いてると流れて來たヘビがカツ子さんの首にぐるぐると巻きついた、ロープを放せば母子もろとも再び水底にのまれる、無我夢中、どうしてヘビをふり放したか石川さんに助けられてから九死に一生を得た苦しさを話した

また一関市鍛冶町木材業加藤喜方に通勤している山目巡査部長派出所中村政治氏五女マサ子さん（[illegible]）は十六日夕帰宅しようとした途端加藤方の家屋がメリメリと磐井川の濁水の中に押し流されマサ子さんは加藤方八人の家族と暗の中をグングン流されていつたが、磐井川鉄橋にぶつかつて家屋は粉砕されマサ子さんは木片につかまつて浮きつ沈みつ流れて行くと何かヌラリと來た、よく見るとヘビが木片に巻きついている、ヘビきらいなマサ子さんは気絶しそうに驚いたが手づかみでヘビを川中に投げ捨てて、ついに一里余の北上川狐禅寺へ漂着して助けられた

◇

市署 の金山忠松刑事巡査（[illegible]）は十六日夜家屋もろとも流されたが磐井川鉄橋にすがつて助かり妻女は狐禅寺沖で部落民に救われその二日目の十八日の朝男の子をお産した、金山刑事は昨秋も水難にあいその騒ぎで妻女は流産の憂き目を見たがこんどは濁水の中に一里余も流され奇跡的に助つて、しかも男の児をもうけた

◇

市の 高台にあつて今度被害をまぬがれた與師沢の復興住宅の人は昨年の水害で家屋を失つた最大の被災者だけに今度は八十世帯が全部飛び出して被災者の救護に当り昨年裏下街で水禍のため家を失つた同住宅の高島沢二さん（[illegible]）一家は願成寺で二千人分のたき出しを一人でやつてのけ相互愛を発揮した

◇

眞滝 字狐禅寺市議佐藤清吉氏は十六日の夜部落の消防団員や青年を動員、豪雨を冒して四そうの舟を出し磐井川狐禅寺沖で大木にすがつて流れくる十二歳を頭の三人兄弟を助けたのをはじめ廿六名を救助、さらに三ノ関沖で十八名、合計五十四名を助けたがこの夜狐禅寺、三ノ関部落に救いを求める声が夜明けまで続いたと部落民は語つている

どこへゆく？避難民 寺院や学校から帰る者なし

【一関にて井上特派員発】水魔におそわれてから四日目の廿日一関市内の舗装された台町方面から大町、地主街の路面はようやく油水が引いて乾きはじめたが、吸川街上ノ橋通り、八幡街、磐街、中街などはまだ一尺近いどろ土が路上を流れて吐け口がないまゝ乾くとも知れぬドロの街と化し、道路におゝいかゝつた流材や押流された家屋の残がいが到る所で歩行者の足をとゞめ各戸では家屋のすみずみまではい込んだドロ土のかき出しにけんめいだ

大部分の商店は品物がドロまみれでまだ店を開けていないが金物店、ゲタ屋等は商売を始めゲタ十足で五十円、金物店では貸借りするなど市民に奉仕している、流失区域の被災者は地方事務所、願成寺、祥雲寺、磐井病院、昭栄製糸ほか各学校に避難しているが家屋がないので盛岡市内や近在の知人、縁故先をと連絡に行き夜になると避難先にもどるので避難先の人員は何日経つてもほとんど減少していない

軍政本部で水害視察に来関

岩手軍政本部レーナー経済部長とフエアー衛生課長は十九日正午水害視察のため来関、地方事務所の対策本部を訪れて災害状況、救援物資の輸送方法、医療救護、防疫対策などをくわしく聴取したうえ道路、下水の整理清掃、死体処理、食品監視等を徹底しておこなうことを勧告したうえ当日市内を巡回して視察した

殖銀払出し開始

一関郵便局と殖銀一関支店は廿日から預金の払い出しを開始した、郵便局では電報を十九日から配達している、また食糧公団の前が人だかりしているので、のぞいてみると水びたしのグリンピースを争つてもらつているところだつた、話を聞けば一日たてば発芽して食えないと係員が語るのだが、食糧に不安を感じている市民はバケツやタライに一生懸命つめていた

ラジオ 廿一日（火曜日）

7.15　賢治忌に寄す　高村光太郎詩
7.30　言葉の姿　西尾実
7.45　インタービュー　世直し
8.00　チエロと管絃楽　チエロ協奏曲
9.15　でん粉について
9.30　家庭の音楽　日響室内楽団
10.00　お手々遊びビクター児童合唱団
10.15　音楽子供部屋　杉並第五小学校
10.30　中学高校の時間　音楽鑑賞
10.45　私達の科学　角笛　東放劇団
0.30　コメデイ　秋空とアコーデオン
1.00　一月廿六日にあなたは何をしていた　宮城音楽△ピアノ　梶原完△検察陣と民衆　佐藤　博
2.30　長うた　土ぐも　富士田新蔵他
3.15　秋の鍛錬　散歩とハイキング
3.30　読書案内　新刊紹介　木村健康
5.15　物語街　夜のりんご　劇団東童
5.30　未来を築くもの　渡辺薫ほか
5.30　水害地リポート　アナウンサー
7.30　日響演奏会　展覧会の絵
8.00　物語　[illegible]　花柳小菊
8.45　随想　動物の生存権　宮沢俊義
9.00　街録　最近の世相と産児制限

◇…廿二日（水）の予定…◇

0.30　独唱　泉のほとり　三宅春恵
0.15　学校放送　銀の波子供会
2.30　義太夫　梅川忠兵衛　竹太夫他
3.15　老人とせき　石垣純二
4.00　フルート独奏　河村秀一
5.15　うさぎさん有難う　Tビツコロ
7.30　話の泉
8.30　ピアノ独奏　奏鳴曲ホ短調ベートーベン　井口基成

水害特報も公開 きようから観光写眞展

本社で岩手観光協会と共催いよいよ廿一日から六日間（毎日午前九時から午後四時）盛岡市川徳で観光写眞展を開くが同時に本社から特派された写眞部員が今度の水害に当り濁水に飛び込んで決死的な撮影をした水害特報も同時に公開することになつた、県下の名勝地の写眞は戦時中取上げられて全く県民の前から姿を消していたが応募した百卅六点はいずれも水準の高いものぞろい、入場料は二円五十銭

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。